

事例番号:330003

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 1 日 腹腔鏡下筋腫核出術後、骨盤位妊娠の診断による選択的帝王切開術目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

9:43 帝王切開により児娩出、骨盤位

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 2 日

(2) 出生時体重:3400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施なし

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 8 日 退院

1 歳 9 ヶ月 歩行不可、右手がうまく使えない、有意語も少ない

1 歳 11 ヶ月 右片麻痺

(7) 頭部画像所見:

1 歳 11 ヶ月 頭部 MRI において、左外側線条体動脈領域に沿った陳旧性梗

塞に伴う左基底核から内包後脚傷害を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 2 名、麻酔科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 3 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、左中大脳動脈穿通枝(外側線条体動脈)領域に脳梗塞を発症したことによる左基底核から内包後脚傷害であると考ええる。
- (2) 脳梗塞の原因および発症時期は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

妊娠 38 週 1 日、腹腔鏡下筋腫核出術後、骨盤位のため選択的帝王切開目的で入院としたこと、入院後から帝王切開までの管理(分娩監視装置装着等)は、いずれも一般的である。

### 3) 新生児経過

出生時の対応およびその後の新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

今後は臍帯動脈血ガス分析を行うことが望まれる。

【解説】本事例は妊娠 38 週 2 日、選択的帝王切開のため臍帯血液ガス分析を実施しなかったとされている。選択的帝王切開の場合においても、分娩時の胎児の状態を把握する手段の一つとして臍帯動脈血ガス分析を行うことが有用である。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期から新生児期に発症する脳梗塞の原因究明を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。